

数字でみる国保の状況

健診を受けて生活習慣病を予防しよう!

だより 国保

現在、健康保険に加入されている方も、退職などにより健康保険でなくなれば74歳までは国保に加入となります。国保の被保険者数は平成27年3月31日現在9,594人(5,497世帯)で、人口の約28%が加入しています。
糖尿病や高脂血症、高尿酸血症などの生活習慣病の発症や重症化を予防するための早期予防対策として、必ず検診を受診しましょう。

市民保険課 ☎57-8506

1人あたりの医療費は年間398,908円

区分	25年度	26年度
香南市	385,976円 (県内18位)	398,908円 (県内18位)
県平均	376,156円 (全国9位)	386,318円 (集計中)
全国平均	324,543円	集計中

26年度の1人当たり医療費は約39万円、県内34市町村のうち18位と県平均よりも高くなっています。

基金の残高は約2,000万円

26年度は財源不足により、3年ぶりに3,600万円の基金を取り崩しました。合併後、3回の税率改正を行ってきましたが、18年度に約2億8,000万円あった基金は、近年の医療費の伸びなどにより26年度には約2,000万円の蓄えしかありません。

特定健診は約60%の人が未受診

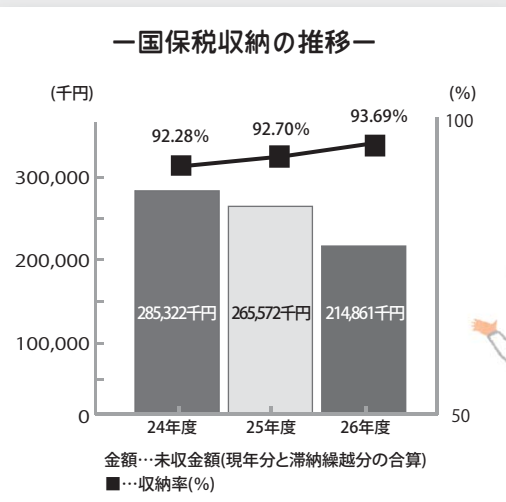
高知県での死因の約3割が生活習慣病に起因する疾病です。生活習慣病は特定健診を受診することによって予兆を発見できます。

26年度における40歳から受診対象の特定健診受診率は39.9%であり、約60%の方の「健康状態」が市で確認できていません。27年度の受診券(水色)の有効期限は3月31日までとなっていますので、未受診の方は必ず受けましょう。

※「特定健診受診券」を紛失した場合、市民保険課で再発行できます

国保税収納率は93.69%

26年度の国保税現年分収納率は93.69%で、県内34市町村のうち29位と低い位置となっていますが、24年度からは毎年収納率が向上し、未収金額は減少しています。



特定健診の結果で危険度がわかります!

内臓脂肪の蓄積

高血糖、脂質異常、高血圧
2項目以上該当で「メタボ」
1項目該当で「メタボ予備軍」



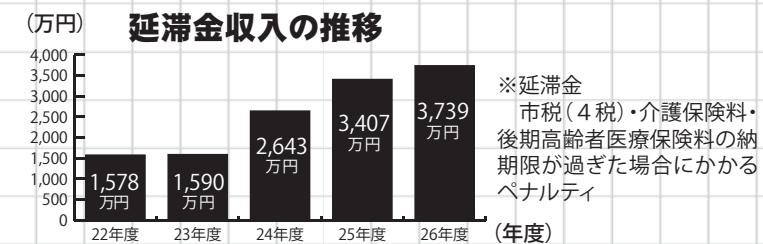
■上記の危険因子が重なるほど、動脈硬化のリスクが高くなります。

■「メタボの判定」で生活習慣病のリスクが高く生活改善で解消が期待できると判断された方は、「特定保健指導」が行われます。

26年度までの主な滞納額

市民税	6,830万円
固定資産税	1億0,303万円
軽自動車税	1,028万円
国民健康保険税	2億1,486万円
介護保険料	1,913万円
後期高齢者医療保険料	319万円
給食費	1,363万円
水道使用料(簡易水道)	1,194万円
下水道使用料	397万円
保育料	1,704万円
幼稚園授業料	69万円
住宅使用料	4,700万円
住宅新築資金等貸付金	1億7,169万円
その他	3,800万円
合計額	7億2,275万円

※上記以外で、収金として水道事業会計2,756万円があります



滞納(未収金)

滞納額の総額は、約7億2,275万円

26年度末の滞納額は、前年度より1億1,050万円減少しています。

市では預金など660件の差し押さえを行いました。また、高額滞納者などは南国・香南・香美租税債権管理機構に移管し、負担の公平性確保に向けた適正な執行に努めています。



延滞しないように
収めましょう

26年度決算 総括

26年度一般会計の決算は、歳入総額231億5,630万円、歳出総額216億9,252万円となりました。25年度に比べ、歳入において25億6,779万円の増、歳出においては18億4,394万円の増となり、いずれも合併以降最高額となりました。

歳入から歳出を差し引いた形式収支は、14億6,378万円の黒字に、形式収支から27年度へ繰り越した事業に充てるための財源を控除した実質収支は11億9,276万円の黒字となりましたが、26年度の歳入には国からの地域経済活性化・雇用創出臨時交付金を原資とする基金からの繰入金7億2,595万円が含まれていることを考慮すれば、市の財政状況は依然として厳しいことには変わりありません。



健全化判断比率 資金不足比率

早期健全化基準はすべて満たす

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定により、26年度決算に基づく健全化判断比率および資金不足比率の内容について公表します。

地方公共団体の財政の健全性に関する指標

健全化判断比率	香南市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率 一般会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率	-	13.12%	20.00%
連結実質赤字比率 すべての会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率	-	18.12%	30.00%
実質公債費比率 借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度をみる比率	12.0% (▲0.6%)	25.0%	35.0%
将来負担比率 市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率	-	350.0%	

○は前年度比

地方公営企業の経営の健全性に関する指標

資金不足比率	香南市	経営健全化基準	財政再生基準
資金不足比率 企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度をみる比率	-	20.0%	

※「-」は赤字が生じていない(該当なし)ことを表示
※実質公債費比率が18%を超えると、借金借入に県知事の許可が必要になります
※実質公債費比率が25%を超えると、単独事業の借金借入が制限され、市独自の事業は、ほとんどできなくなります